

巡回展 Part3 移民と和歌山 2017

和歌山からブラジルへ 100年の時を経て

1908（明治41）年6月18日、781人の契約移民を乗せた笠戸丸がサントスに入港し、日本からブラジルへの集団移住がはじまりました。2008年、日本とブラジルの交流は100周年を迎えています。和歌山県からも多くの人々が、ブラジルで新たな生活を切り開こうという決意を持って渡航しました。初期移民の時代から100年の時を経て、本年10月、サンパウロではブラジル和歌山県人会が主催して100周年を祝う式典が開催されました。

この記念すべき年、紀州経済史文化史研究所では、さまざまな機関・団体と協力し、巡回展「移民と和歌山2017 ー和歌山からブラジルへ 100年の時を経てー」を開催します。2017年10月から2018年2月にかけて、3か所をめぐる。ブラジル移住者の足跡をたどり、これまでの100年から現在へ、そして未来へつながる100年を考えることをテーマとします。

写真：神戸・海外移住と文化の交流センターに咲くイペー（ブラジルの国花）

提供：一般財団法人日伯協会

【日時】開催期間：2018年2月2日（金）～2月27日（火）

【会場】Part3：和歌山県国際交流センター

開館時間：10:00～18:30 ※最終日の2月27日（火）は、15:00 終了

閉館日：水曜日・祝日

主催：和歌山大学・地域活性化総合センター 紀州経済史文化史研究所

共催：（公財）和歌山県国際交流協会 / 和歌山県中南米交流協会

後援：和歌山県立図書館 / 田辺市 / 田辺市教育委員会

協力：JICA 横浜 海外移住資料館 / 南紀熊野サテライト

問合せ先：紀州経済史文化史研究所 TEL：073-457-7891

<http://www.wakayama-u.ac.jp/kisyuken/>